

三重県立四日市農芸高等学校

URL : <https://www.mie-c.ed.jp/ayokka/wp/>



活動紹介

■活動場所

本校周辺、みのりの丘農場、鶏舎

■活動日、活動頻度等

週1回程度

■活動内容

四日市農芸高校では、地域資源を活用した課題研究に取り組んでいます。その取り組みの多くは、廃棄物を活用した取り組みになっています。

1. 地域資源を活用した持続可能な鶏卵生産

食品企業から排出される膨大な食品廃棄物を飼料として活用することで、輸入穀物飼料の使用を減らせないかと取り組みをすすめています。経営コストの削減だけでなく、食品廃棄物の有効活用にもつながり、経営面および環境面において持続可能な畜産業の実現を目指しています。

2. 地域資源“三重なばな”の有効活用を目指して

収穫時期終盤に出荷されず廃棄されるなばなの葉や茎の部分は株全体の1/3になるといいます。三重県全体で規格外として年間廃棄量2万kg廃棄されていることを考えると環境におおきな負荷をかけていることとなります。私たちは、三重県農林水産部の協力のもと、三重県工業研究所と連携し、乾燥と粉末化の方法を確立するにいたりました。これは新たな市場価値の創造につながります。食品科学科では、粉末化したなばなを活用し、地域の方々と技術交流をおこなっています。



代表者の想い

四日市農芸高校では、環境に関する取り組みを大切にしています。そのなかで農業3学科（農業科学科、食品科学科、環境造園科）は、各学科の特色を生かした活動を展開しています。地域に愛される農業高校を目指して、地域の農業の活性化に何か協力できないかと生徒たちとともに考えています。

最近の取り組みの多くは、廃棄物の有効利用です。農業生産に廃棄物を活用することでごみの減量化や地域の活性化につなげることができればと思っています。

PR

本校周辺の里地里山は四日市市にある7つの丘陵地のひとつに数えられ、明治時代よりミカンの栽培をおこなってきました。ところが、後継者が育たず果樹園にも竹林が忍び寄っています。これまで、竹林の管理に協力し、地域の環境を守るとりくみに協力してきました。今後も竹の有効活用について考え、活動を展開していきたいと考えています。